

「国際連盟保健機関と上海の衛生 - 1930年代のコレラ予防 - 」

福士由紀（一橋大学大学院）

はじめに

- ・近代期上海におけるコレラ流行状況（ 図1 ）
- ・1920年代：国際衛生活動（国際連盟）
- ・先行研究：飯島（2000）、張力（1999）
- ・課題設定：上海が国際衛生という枠組みに組み込まれていく過程の社会的政治的变化を特に上海地域の各衛生行政当局間関係に着目して検討

1、近代中国と国際連盟保健機関

- ・国際連盟保健機関の活動とアジアへの関心
- ・北京政府期：ライヒマン¹の北京政府への働きかけ
- ・南京国民政府：非常任理事国落選事件（1928） アヴノール来華 衛生合作の実現へ

2、ライヒマン来華と中外聯席会議

（1）国民政府衛生部とライヒマン

- ・ライヒマン来華 合作内容 全国海港検疫処、上海地域のコレラ・天然痘撲滅、専門技術人員の訓練、医療・衛生機関の設置、医学教育の普及、教育部との合作

（2）中外聯席会議と中央コレラ局の設置

- ・中外聯席会議（ 表1 ）
- ・コレラ撲滅方法をめぐる共同租界 VS ライヒマン・上海市（ 資料1 ）
- ・中央コレラ局の設置とその性格
- ・中外聯席会議における国際連盟の役割（ 表1 ）

3、共同租界のコレラ予防運動に対する反応

（1）コレラ予防認識

- ・コレラ予防注射
- ・共同租界衛生局の限界と植民地経験

¹ ライヒマン（L.J.Rajchman, 1881-1965）1881年ロシア帝政下のポーランド、ワルシャワの出身。クラクフ大学で医学を学んだ後、パストゥール研究所、王立衛生学院、ロンドン大学などで研究教育活動を行う。1921年、国際連盟事務局衛生科科长に就任。医療衛生活動を行う一方でポーランド社会党に入党し、国内革命運動に参加するといった政治活動も行う。1939年国際連盟事務局の職を辞した後、ポーランド亡命政府に参加。第二次世界大戦終結後、国連ポーランド代表となり UNICEF 創設に尽力、1965年フランスで死去。

(2) 1920年代末～30年代の共同租界の置かれた環境

- ・五三〇事件～反租界運動
- ・南京国民政府成立 上海市政府：衛生局（局長胡鴻基²）による租界行政批判

(3) 『上海における1930年のコレラ流行に関する報告』

(4) ライヒマンと共同租界

- ・ライヒマンと共同租界の対立関係
- ・ライヒマンへの評価

4、コレラ予防運動の実態

(1) 共同租界のコレラ予防注射実施状況

- ・(図2)(表2)
- ・工場中心：工場主への依頼

(2) 上海市のコレラ予防注射実施状況

- ・(図3)(表3)
- ・理念、方針
- ・強制性

(3) 水問題

- ・上水道普及状況
- ・中央コレラ局による水道会社への交渉過程
- ・1932年コレラ流行

おわりに(まとめ)

- ・1930年代のコレラ予防運動実現までのさまざまな要因
(国際連盟へのアジアへの関心/ライヒマン/国民政府と連盟の関係/五三〇以来の反英運動/中国側衛生機関の設立とそのナショナルスティックな性格)
- ・内情：様々な批判にさらされていた共同租界が予防方法への認識の相違がありながらも譲歩
- ・連携方法：中央コレラ局という曖昧な機関を設置しての三当局間協調、国際連盟の存在
- ・運動の実態：共同租界と上海市でスタンスに差(背景：予防方法への認識、制度の差)
強制性と衛生観念の浸透

² 胡鴻基(1894-1932)、江蘇省無錫の生まれ。1924年ジョーンズホプキンス大学で社会衛生学博士号を取得、帰国後青島普濟医院、北京公共衛生事務所などでの勤務を経て、26年淞滬商埠衛生局副局長に就任、1927年7月上海市政府衛生局局长、28年中央衛生委員会委員に就任、1932年自動車事故により死亡。死後ライヒマンは国際連盟に「胡鴻基記念奨学金」をもうけ、中国の中央・地方の衛生・検疫機関人員に海外研修を行わせる制度の設置を提議している。

参考文献

- 飯島渉『ペストと近代中国』研文出版、2000年
- 伍連徳『一九三二年支那に起つたコレラの大流行に就て』興亜院技術部、1939年
- 佐藤正「保健衛生の国際協力」『国際知識』7巻8号、1927年8月
- 唐啓華「周辺としての中国」横山宏章・久保亨・川島真編『周辺から見た20世紀中国』中国書店、2002年
- 徳田六郎「保健問題に関する国際聯盟と支那政府との協力」『同仁』6巻12号、1932年12月
- 内務省衛生局『東洋ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」及痘瘡』1925年
- 福士由紀「日中戦争期上海における公衆衛生と社会管理」『現代中国』第77号、2003年
- 見市雅俊『コレラの世界史』晶文社、1994年
- 米田実「連盟の対支技術的援助に就きて」『支那』24巻10号、1933年10月
- 脇村孝平『飢饉・疫病・植民地統治』名古屋大学出版会、2002年
- JACAR (アジア歴史資料センター) 史料
- 伍連徳『霍乱概論』海港江検疫管理处出版、1932年
- 鄒依仁『旧上海人口変遷的研究』上海人民出版社、1980年
- 『市政公報』
- 『申報』
- 『全国經濟委員会報告彙編第2集：国際技術合作代表拉西曼報告』1934年
- 唐啓華「顧維鈞與北京政府对国際連盟的参与」金光耀『顧維鈞與中国外交』上海古籍出版社、2001年
- 張力『国际合作在中国』台湾：中央研究院近代史研究所、1999年
- 陳永漢「上海之最近公共衛生運動」『中華民國二十三年海港検疫管理处報告書第4冊』、1934年
- 羅志如『統計表中之上海』国立中央研究院社会科学研究所、1932年
- 劉以錦編『劉瑞恒博士與中国医薬及衛生事業』台湾商務印書館、1989年
- 上海市档案館所蔵上海共同租界工部局衛生処档案

League of Nations., *The Prevalence of Epidemic Diseases and Port Health Organisation and Procedure in the Far East*. Geneva: 1923.

League of Nations Health Organisation., *Proposal of the National Government of the Republic of China*. Geneva: 1930.

Macpherson, Kerrie., *A Wilderness of Marshes*. HongKong: Oxford University Press, 1987.

Meienberger, Nobert., "China and the League of Nations." *The League of Nations in*

Retrospect. Berlin and N.Y.:Walter de Gruyter, 1983.

Osterhammel, Jurgen., "Technical Co-operation between the League of Nations and China." *Modern Asian Studies*, vol.13,no.4,1979.

Wu, Lien-teh., *Plague Fighter*. Cambridge: Heffer&Sons LTD, 1958.

Yip, Ka-che., *Health and National Reconstruction in Nationalist China*. Association of Asian Studies, Inc. The University of Michigan,1995.